

令和5年度第2回立川市観光振興計画協議会 要旨

会議名称	立川市観光振興計画協議会
開催日時	令和6年3月4日（月）午後7時～午後8時30分
開催場所	立川市役所 210 会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 総合政策部長挨拶 3. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 立川市第3次観光振興計画の進捗状況について（報告）【資料1】 <ul style="list-style-type: none"> ・立川市内における撮影支援の状況・実績について【資料2】 (2) DXによる観光データ活用等支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・観光客実態分析結果について【資料3】 (3) 情報提供 <ol style="list-style-type: none"> ① PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン 2004-2026 について【資料4】 ② （一社）立川観光コンベンション協会関連事業実施報告 (4) 第4次立川市観光振興計画の策定スケジュールについて【資料5】 4. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度予算について
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 立川市第3次観光振興計画の戦略と施策マネジメントシート 2. 立川市内における撮影支援の状況・実績について 3. 観光客実態分析結果 4. PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン 2024-2026（概要） 5. 第4次立川市観光振興計画策定スケジュール
出席者	<p>[構成員] 会長 中野史朗、副会長 岩下光明、田中光徳、高島優、戸島慶太（榊原菜代 代理出席）、峰岸徹、矢部直人、青木祥民、本間義信、後田洋平、大塚正也（総合政策部長）</p> <p>[事務局] 太田勇（シティプロモーション推進担当課長）、小山裕二郎（観光振興係長）、菅野賀陽（観光振興係）、藤戸茉理亜（観光振興係）</p>
欠席者	相原俊則
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果及び要旨	<ol style="list-style-type: none"> 1. 立川市第3次観光振興計画の進捗報告と、意見交換を行った。 2. 次回日程は令和6年6月に開催予定とする。
担当	総合政策部広報課シティプロモーション推進担当課観光振興係 電話 042-529-8562

1. 開会

2. 総合政策部長挨拶

今年度第2回の観光振興計画の協議会ということで今年度の取り組みのご報告というところと、DXによる観光データ活用等支援事業というのが今日の市議会の総務委員会がございまして、そこで報告をさせていただいております。データの利活用というところで、調べたデータをどう生かしていくのかというところを委員の皆さまのご意見をいただきながら、次期第4次観光振興計画の策定を進めるなかで、本市にはどういった取り組みが必要かというところをご議論いただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

3. 議題

(1) 立川市第3次観光振興計画の進捗状況について

(会長)

ありがとうございます。続きまして次第3、議題の方に移ります。はじめに、立川市第3次観光振興計画の進捗状況について、事務局よりお願いします。

(事務局)

資料1及び資料2をもとに概要を説明

(会長)

ありがとうございます。今事務局より説明のあった件につきまして、何かご質問等はございますか。

(A委員)

2点あります。立川観光コンベンション協会推奨認定品のブランディング強化に取り組まれているということですが、これに関連して、ぜひ立川市のふるさと納税をもっと大々的にPRしていただきたいと思っています。地方のDMOなどですと、それがメインの活動になるぐらい地元の産品を売り込むことに力を入れているので、ぜひふるさと納税の返礼品に推奨認定品をもっと出して行ってほしいと思います。

あと、数年前に商工会議所のフリーWi-Fi推進の協議会を立ち上げさせていただいて、モノレール沿道を中心に民間店舗の複数個所で立川市のフリーWi-Fiと同じ規格のものを設置したのですが、立川市のフリーWi-Fiが、おそらくバージョンアップの問題だと思うのですが、比較的安全度の低いものに分類されています。認証してすぐに繋がったりしない形になっているところもあるので、ちょっと確認をしていただいて、安全度の高いフリーWi-Fiにしていいただければなと思います。

(事務局)

ご質問ありがとうございます。ふるさと納税につきましては、総務課が担当しておりますが、内部管理の部署ということもあり、事業者の情報をうまく収集できないという課題がありました。いま委員からいただいたご意見も参考にさせていただき、今後改善の余地は大き

くあるだろうと思います。また、フリーWi-Fiにつきましては、市が管理する機器については来年度に向けて更新作業を進めているところです。東京都が進めるオープンローミングという規格にも対応できるものになる見込みです。

(A委員)

商工会議所でフリーWi-Fiの整備を進めたときに、立川市のSSIDの認証方式に統一してもらいたいということをご意見いただいて、各企業様にお願いして同じSSIDのものを使用させていただいていました。もし、変えるのであれば、我々の方にも事前に統一しましょうと言っただけだったらよかったですと思います。

(事務局)

そこは、また改めて、情報提供させていただきます。

(会長)

他にございますか。私から補足ですが、推奨認定品については、先週の3月1日審査会がありまして、その結果新たに10品目追加されました。そのうち1事業者が新規の事業者でした。

(2)DXによる観光データ活用等支援事業

(会長)

では、議題の2、DXによる観光データ活用等支援事業について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは資料3の方をご覧いただきたいと思います。DXへの観光データ活用等支援事業につきましては、令和5年7月からD.S. INSIGHTを利用して、計画を策定する中でのデータ活用を検討しておりますが、前回委員会でもお伝えしたとおり、東京都のDX観光データ活用等支援事業に採択され、2年間、観光分野におけるデータ利活用の伴走支援をしていただけたこととなりました。座組の中には立川観光コンベンション協会も入っていただき、ヒアリングや協議を経ながら取り組みを進めているところです。その過程で、今回実際のアンケート調査と東京都保有データ及びD.S. INSIGHTから得たデータを取りまとめ、分析したものがお手元の資料3の冊子です。以下、資料の詳細を説明。

(会長)

ありがとうございます。こちらについて、何かご質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。

(A委員)

たくさんの情報ありますけれども、22ページに全てが集約されていると感じます。ただ、立川市として何がしたいのか、という点が不明確だと思いました。観光客を増やして他者のいいところを知って、あって定住人口を増やして人口減少に歯止めをかけたいのか、単に消費額を増やして商業振興をして、就業人口とか働いている人たちの所得を向上していきたい

いのか、最終的な目標がちょっと見えてこない。結局これに書かれているのは、既存の民間事業者に協力してもらうという趣旨しか書かれていないので、市として何をしていくかという意味での戦略としては、不十分ではないかと思います。その点についてはどうお考えでしょうか。

(事務局)

現行の第3次計画においても、観光コンベンション協会や民間事業者の取り組みを支援することが中心で、そこが一番大事なところだと捉えております。ご指摘のあった内容、行政の役割や観光分野における取組の方向性につきましては、基本的には第4次計画を策定する中で検討していければと思います。

(A委員)

観光宿泊に関して宿泊事業者の立場としてお話をさせていただくと、立川に泊まる目的を持ってきて立川に泊まらなければならない人を優先せざるを得ません。観光で立川に来て何かしようという方よりも、立川に泊まらなければいけない方を最優先にしますので、こういった方々が立川以外に行かないようにするのは我々宿泊事業者の使命だと思っていますので、その点をご理解をいただきたいと思っておりますし、現状もう既にかなり他の地域の宿泊施設を利用している方もいらっしゃるようです。

前回は話題に上がりましたが、パレスホテル立川が閉業となった影響を例として挙げると、これまで利用のあったプロ野球の球団が一部、立川市外の宿泊施設を利用することです。ほかの球団に関しても、よくご満足いただけるような対応ができなければ、他地域の宿泊施設を利用する選択をされることも考えられるので、我々宿泊事業者としては、できる限りのことをやらせていただきたいというふうに思っています。

(会長)

大型バスが停車できる場所がなくなってしまう影響もあるという話を聞きました。

(A委員)

あまり利用頻度の高くないバス停は、大型バスを停車したいという事業者に貸すことはできないかなとも個人的には思います。土曜の朝2便しか止まらないようなバス停がありますので、そこは少し整理したほうがいいのかと思っています。バスに関していえば、成田エアポートリムジンの立川駅前からの便は運休がずっと続いています。羽田便も減便されていますし、他県への高速バスも減少傾向にありますので、そういったこともマイナス要因としては出てくるのではないかと思います。

(会長)

周遊性を高める要素のひとつとしては、ペDESTリアンデッキがあると思います。大変だとは思いますが、曙橋交差点や昭和記念公園をつなぐようなデッキができれば、周辺への回遊性も高まるのではないかと思います。

(事務局)

そのあたりは基本的にはまちづくり部門が担当しておりますので、私のほうからすぐに

コメントできかねることはありますが、建設コストやその効果の検証が必要であることは当然のこと、観光推進という視点でそれを作ることによって観光消費額が増えたり、法人税収入が増えるのかなど、検討を進める中で必要となってくるものが多くあるかと思えます。資料にあるグリーンスプリングス来訪者の市内の他スポットへの回遊性が7.8%というのも、エスカレーターから駅への動線を考えると、何か目的がないとほかの場所には立ち寄りたくないというのも当然かなとも思えます。

(B 委員)

資料のデータからは、予想以上に周遊していないというのがちょっとショックな部分もあるのですが、先ほど言われた行政でできることって何かなと考えた場合に、やはり規制緩和と権限委譲だと思っています。

例えば、今、錦町の下水处理場の跡地をどうするか、民間に駐車場として、使っていていいよと、パークアンドライドなどをして、それを使うと市内施設のクーポンを付与するか、そういう施策を打てば、おそらく一定のニーズがあるのではないかと思います。

だから物理的インフラを作ることが、民間ではできないけれど、行政が保有する資産で遊休地というのは結構出てきているのではないかと思います。

立川へのアクセスというと、車では五日市街道沿いからが多いと思うので、土日は駅前の駐車場のニーズが半端ではない。だからこのデータに駐車場の車にとかもあれば、多分それなら駅近以外に停めてもらって、シェアサイクルや電動キックボードで移動してもらい、それにインセンティブを付けという施策はいいのではないかと思います。

あとは宿泊率ですが、立川のホテルは稼働率がかなり高いということで、宿泊率6.9%を伸ばすにもどうするのかなという疑問があります。もし稼働率に余裕があるのなら、宿泊者数を増やせば観光消費額が増えますということは言えると思うのですが、ほぼ余力がない状況ということですので、難しい部分もあるのではないかなと感じます。もし日によって空いているところがあれば、当日1000円引きだとかのインセンティブをつけることで宿泊者数を伸ばすような取り組みもできるかなとも思いました。

(C 委員)

宿泊率の向上などの各種データですが、このデータをそのまま公の場に出して、この率を上げればいいというような安直な方向に向いたら、実現可能性が低い話になってしまうのではないかと思います。ですので、その部分は、まず現状で立川市が直面している観光に関する課題もあわせて報告いただかないと、おそらく議論が全然違うところに出してしまうと思います。あと他にもグリーンスプリングスの周辺、ここは駅前なので、グリーンスプリングスは距離が近いので比較的行きやすい場所だと思いますが、他の対象となっている施設は比較的離れていて、そこに行ったらそれで目的が達成してしまうというような所のデータになってしまっているのではないかと思います。そこから回遊率というのが、どこに行っているのか、どういうところがあったら魅力的なのかというのは、少し着眼点がずれているのかなというふうに思えます。目的とか市の目標とかそこからこのデータを見るとこう見

えるね、という、どっちを起点にするかであったりしないと、これらのデータ分析の取り組みが無駄なものになってしまうのではないかと危惧しています。

(事務局)

観光分野における行政の目標としては、多くの方に立川にお越しいただき、その方々の観光消費額を増やすことがあると思います。さらに課題としては、大規模開発で来街者が増えている北口だけでなく、地域の商店街や、南口にも来街者に回遊していただくということがあるかなと思います。このあたりの考え方についてはぜひ委員のみなさまにもご意見をいただきましたと考慮しておりまして、第4次計画策定の議論を進めていく中で、様々なご意見をいただければと思っております。

(D 委員)

宿泊に関するデータについて、率として出されておりますが、絶対数のほうがよいのではないのでしょうか。割合にしてしまうと分子と分母という話になり、実際宿泊されている方の実数とは乖離してしまうこともあるのではないかと思います。また、なぜ宿泊者数を目標値として捉えようとしているかが疑問に思いました。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。宿泊者数の率を上げようという視点については、日帰り客より宿泊客のほうが、観光消費額が多いということが主な理由です。観光消費額を増やすためには、宿泊者数を増やすことが非常に効率のいい取り組みではないかという視点です。

(E 委員)

市としての明確な目標がないと、データを取得する費用だけがかさんでしまい、有効な分析につながらないということになりかねないのではないかと感じました。

ターゲットについて、立川での宿泊はビジネス利用も多いと思うので、ビジネス層へのアプローチという視点を戦略に上げてよいかなと思いました。ビジネス利用の方が観光客としてカウントされるのかどうかも気になりました。

(事務局)

ビジネス利用の方も当然、観光目的の方と同じように食事をするしショッピングをする方もいらっしゃるかと思います。来訪する目的が違っててもやることは同じであればそこも狙うほうがよいのではというご意見かと存じますが、ではその層にアプローチするにはどうすればよいか、どのような伝え方がよいか、そもそも対象に含むべきかななどについても、今後の議論の中でご意見をいただければと思います。

(B 委員)

この中で海外からの観光客はどの程度いるのかわかれば教えてほしいと思います。私もものやっている取り組みで、横田基地で開催されるファーマーズマーケットに出展させていただいているのですが、そうすると外国の方が実店舗へ地酒を求めに来店してくれたりしています。羽田や成田から人を呼ぶというのはかなりハードルが高いと感じますが、近くにいるインバウンドという視点で横田基地の方々へアプローチするという考え方もあって

もいいのではないかと思います。

(事務局)

横田基地に関しては様々な考え方もありますので、行政が直接観光推進を目的としてアプローチするという事は難しい面もあるかなとは感じますが、福生市は国道16号沿いの店舗を完全に横田基地をターゲットとして展開されていますので、そういったマーケティング的な視点は非常に大事なかなと思います。また、立川市に来訪される外国人の方も、データ上は増加傾向にあることがわかっております。ただ、東京都全体で見たときは、まだ立川市への来訪者割合は低いです。宿泊施設も少ないということもありますので、宿泊率を増加させることを目指すのか、どうなのかっていうのも、非常に大きな論点なのかなと思います。

(A委員)

このデータを見させていただいて、10年ぐらい前に立川の地域の来街者調査したデータと、ちょっと記憶の中で比べているのですが、当時と違うのは、子連れのファミリー層が立川に来るようになったということです。実際の肌感覚でも若い方々たちが来るようになったというのは間違いなくあると思うので、そのトレンドを組み合わせ、今後それが増えていくとした場合もシミュレーションとかってするのはぜひお考えいただきたいかなと思います。若い方でお泊まりになる方も増えていますし、女性2人のお客様コンサートに来てコンサートにお金使うけど他に一切お金を使わないというようなお客様も相当いらっしゃるようになりましたので、トレンドはそこはきちっと押さえていただいて、今までと違った客層が確かに来ているのは間違いありませんから、そういったニーズに対応していくというのもいいのかなと思います。

(D委員)

今のお話を伺っているつながりですが、この半年間で外国人旅行者と思われる方に2組、道を聞かれることがあり、その2組とも立川まんがばーくへ行きたいという家族でした。お子さんは小学生から中学生ぐらいで、少し話を聞いたのですが、日本語の漫画を読めるのかなと思ったら読めない、もちろん読めないのだけれど、雰囲気を楽しみたいと言ってきたので、今の出た話題と同じように感じました。

(F委員)

事務局の説明を聞いて、非常に興味深いと思っはいるのですが、なぜ今回アンケートを昭和記念公園でとった日が、12月1日・2日ということで、この日取りだと観光を目的とする人たちに対してキチンとアプローチできたのかという疑問があります。12月というと紅葉がハイシーズンではないので、どちらかという普段からの公園ユーザーの方から取れてしまったのかなという印象です。そうすると、このデータから観光に関する戦略を考えるとというのが、ターゲットとしてどうだったかなっていう印象もあります。なので、観光目的のお客様が多く来場する春や秋の季節を狙ってアンケートを取って、そこから分析していかないと、そもそもの土台がちょっと違ってしまっているのかもしれないと感じました。

また、22 ページの記載内容についてですが、早朝深夜という、我々としては費用対効果を考えてしまって、それなりの魅力があるっていうのは感じてはいるのですが、利用客の数が日中に比べて圧倒的に少ない可能性が非常に高いので、やはり我々としては一番お客様が来園される日中、それも一番時期の多い春とか秋そのあたりにたくさんのお客様を呼んで、宿泊率を上げるというよりは、どちらかという先ほどから話題に出ている、公園から街に回遊するよう、来園者のみなさまにどうアプローチができるかというところを議論していけたらいいかなと感じました。

(会長)

A委員、何かありますか。

(A委員)

そうですね、インバウンドの話になりますが、コロナが明けて富士山方面に乗車するお客様がやはりすごく多くて、富士山の方に行く直通列車がもう常に満席で、デッキもぎゅうぎゅう詰め状態で新宿からそのまま河口湖まで行くわけですね。でもその状況を何とかしたいというところで、立川・八王子で、あの帰りでもいいので下車してもらおうというような取り組みを実はやっておりまして、特急電車の車内に、立川や八王子のお土産情報や飲食店情報の記載された英語のパンフレットを入れるというアプローチをしています。ただ、それを見て実際に下車してくださる方は少なく、混雑緩和につながる取り組みなので推進していきたいと思いつつ、難しさも感じております。また、駅たびコンシェルジュというサービスがあり、外国からのお客様が日本で使える JR のパスの交換などやっていますが、少し値上げした影響で、利用客が減少傾向にあります。また、傾向としては今までは目的地を決めずに来る外国の方が多かったのですが、値上げの影響か、確実に目的地を出発前に決めてから来る方が増えたということがあり、インバウンドといってもアプローチの仕方には難しさを感じているところです。

(会長)

ありがとうございます。G委員、いかがでしょうか。

(G委員)

私はデータ分析について感想を述べさせていただきます。前回の委員会の中で、観光のターゲットは市内在住か市外在住かどちらかというような趣旨の質問があり、基本的には市外の方をターゲットにするという回答が事務局からあったと思います。ですので、このアンケートについてもぜひ市外在住限定で集計してはどうかなと思います。(事務局より、市外在住者が対象になっている旨を説明)

このデータについては、回遊率の分析では DS インサイトのデータを使って計算されていると思うんですけど、アンケートの中でも他に立ち寄る場所を聞いていると思いますが、その内容をなぜ使っていないのかなというのは少し気になりました。

(事務局)

アンケートの生データはまだいただいておりませんが、今後いただく予定です。ただ、ア

アンケートでは自宅から目的地に行ってどこにも立ち寄らず帰るという方がほとんどだったということは事業者から聞いております。

(G委員)

なるほど、ありがとうございます。他には、グリーンスプリングスの来訪者の消費額が多いという点は面白いなと思っていて、ここに注目するのはいいかなと思います。あとは昭和記念公園の来訪者はなんといってもボリュームが大きいので、グリーンスプリングスと昭和記念公園に目をつけることはよいと思います。

また、今後このような調査をするのであれば、来訪者がどういう情報源利用して来たのかを聞いておくと、その後のアクションへとつなげられるかもしれません。パンフレットなのか、ネットの情報なのか、口コミかなど、実際に観光客にもう少し詳しいヒアリングをして、選んだ理由を集積しておくことが良いと思います。

(事務局)

アンケート項目については、皆様のご意見を参考にしながら、改善していきたいと考えております。補足なですが、このようなアンケートを続けるには当然コストがかかってきますので、できることであれば今回ご協力いただいています商業施設にご協力いただくといったような、持続可能な取り組みにしていければと思っております。

(会長)

F委員にお尋ねしたいのですが、昭和記念公園の昭島口周辺の再整備について、今後どのような展望やお考えなのか、そういったことがわかれば教えていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(F委員)

ご質問いただいた事業自体は国交省が進めている事業なので、私の立場でいくと、仕事を受託する側の視点になり、何とも言えないのですが、お答えできる範囲でお伝えします。事業の完成は令和10年度を予定しているようです。その完成までに、現状のプール跡地に関しては、同じように「水」に関係したテーマで事業を募集されていますので、水をテーマにした施設に再整備がなされると思います。

(会長)

昭島の方がかなり綺麗に整備されたら、人の流れが変わってくるのかなと思っております。今、立川駅側からの利用が多いと思うのですが、昭島口が再整備されることにより入口の利用者が分散して、立川駅からの人が減るのではないかと思います。

(F委員)

交通の便という視点ですと、圧倒的に立川の方が乗客数も多いので、昭島側は、ゲートとしては再整備しますが、そこまで大きく人流が変わるとまでは思っていないです。駐車場をあらにも大きく整備するので、パーベキュー場にそのままダイレクトに入れるような形になるそうです。利便性の向上には繋がると思います。

(3)PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン 2024-2026 について

(会長)

ありがとうございます。

では、次の議題に移りたいと思います。情報提供について事務局よりお願いいたします。

(事務局)

こちらに関しては、本来相原委員よりご説明いただく予定でしたが、多忙により欠席となりましたので、事務局からご説明いたします。

資料をもとに説明

(会長)

はい、ありがとうございます。とくにご質問ありませんでしょうか。

(4)(一社)立川観光コンベンション協会関連事業実施報告

(会長)

では、続いて立川観光コンベンション協会関連事業実施報告についてお願いいたします。

(事務局)

こちらお手元の資料は、特にございませんので、モニターをご覧ください。怪獣8号のアニメ関連の企画でございます。コトブキヤ様が中心となって進めているプロジェクトで、別に先日情報解禁されました、怪獣8号という漫画がございまして、ジャンププラスというデジタル先行と週刊少年ジャンプの漫画で連載されております。

これが、4月13日からテレ東系ですアニメ化を予定されております。この作品が、立川も舞台の一部になっておりまして、そしてこちらの今回の企画では、防衛隊員の休日ということで、立川駅周辺を中心に様々な企画が展開されるということです。

まだ具体的な企画は、今の段階でお伝えできないのですが、随時発信されていきます、ぜひ皆様お待ちしてください。

続いて、立川ロケーションサービス展示会の報告についてです。令和6年1月13日から2月4日までシネマツール1階ロビーにおいて、第2回となる立川ロケーションサービス展示会を開催いたしました。議題の1でお話しました、「ブラザートラップ」のロケ地マップの配布の他にも、マップを大きく作成した目を引く展示や漫画原作者の方からいただきました描き下ろしイラスト、サインイラストの展示を行いました。ほかには、「翔んで埼玉」や「美男ペコパンと悪魔」の劇中使用された衣装展示、市内ロケ地使用の作品出演者のサイン色紙展示を行いました。

展示会来場者アンケートを会場内で行い、73名の方の回答をいただきました。

来場者の8割は市内含む都内からで、映画を見たついで以外にも、3割の方からSNSや広報たちかわを見て来たという方もいらっしゃいました。

来年度の展示会がどのような方向性になるかは、まだ決まっておりませんが、「また開催された際に来たいか」の項目では、9割の方から「はい」の回答が出ています。この作品に

立川が出ていたのかという感想も多く、普段の発信では届かなかったところまで、様々な作品に立川の景色が出ていると知ることができ、来場者の立川へのシビックプライドの醸成に繋がっていると思われま

す。続きまして、観光ガイドブック「立川散策」リニューアルについて説明させていただきます。来年度4月1日リリース予定です。今回のポイントとしましては、市外在住の30代女性の方をメインターゲットにしたことと、今までにない立川を、ちょっと前に出したいということで、ホカンスというホテル+バカンスの造語ですけれども、そんなことができるなんというところをちょっと前に押し出してほしいとしております。発行部数は3万部で、2年ごとにベースに更新していく予定になっております。ぜひ、後ほどごゆっくりご覧いただければと思います。

続いて、立川・国立ロゲイニングというイベントがありまして、こちら事務局も参加してPR写真以降、クォーターからわかりました本事業につきましては東京都商工会の多摩観光推進協議会のご支援をいただいて、実施をしたというふうに伺っています。先ほど計画というかデータ分析中でロゲイニングみたいなことが少し出てしてございましてこのロゲイニングというのは、主催者が定めた地図内にポイントがいっぱい打ってあって、そこがスタートから遠くに行けば行くほど点数が高かったりとかってということで、一定時間内の間にずっとぐるぐると回って、最終的に点数が高かった人が優勝となるイベントになります。要するにオリエンテーリングを街中で行うというような企画なので、そこにいろいろな要素をどう付加するかという点で、汎用性があり可能性があるイベントだと感じました。例えば飲食店も絡めつつ、そこで何かを食べたらポイント付与するとか、交通事業者と連携するなど、工夫の余地が多くあり、さらに面白いイベントに育つのではないかと感じています。

(E 委員)

私は新海事務局長と一緒にさせていただいて、高得点を狙うというよりは飲食店さんでお金を使って参りましょうっていう趣旨で参加しました。参加した感想としては、市内を知っている人でないと難易度が高いと感じました。

市外から観光目的で来る方をターゲットにするのであれば、それこそ飲食店さんをスポットにして回遊してもらってお金を落とす設計にすればよいかもと思いました。

私は立川に住んで4年なので、まだわからない場所も多くありますし、難易度が高い地点があった印象です。

(会長)

来年度も開催する予定はありますので、ぜひみなさまも参加していただければと思います。

(事務局)

得点を取るのに集中している方もいらしたので、街歩きの要素と組み合わせつつ、もう少し余裕持って楽しめるような設計にしてもいいかなとも感じました。また、今回のイベントは4~50人程度の規模でしたが、他の自治体で開催された例ですと、500人ほどの大規模

で開催されているものもあるので、観光振興という視点でも可能性の高いイベントかなとも思います。事務局からこの議題での説明は以上でございます。

(会長)

この件につきまして何かご質問はございますでしょうか。

(D 委員)

実際はどのくらい歩くのですか。

(事務局)

私たちのチームは、スタートから約3時間以上、軽食を挟んで歩きっぱなしでした。優勝したチームは、富士見町からずっと西国立の方まで歩いて、そこからずっと中央線まで歩いて戻ってきたというパターンで、走ったりもしていたようです。

(会長)

他にございますか。

(5)第4次立川市観光振興計画の策定スケジュールについて

(会長)

では、続きまして、第4次立川市観光振興計画の策定スケジュールについて、事務局より説明をよろしく申し上げます。

(事務局)

資料5に基づき説明

(会長)

今の説明について、何か質問がありますでしょうか。

(D 委員)

リモート参加はできますか。

(事務局)

リモート参加の環境整えていますので、ご希望の際は事務局に事前にご連絡ください。

(6)令和6年度予算について

(会長)

では、続いての議題、令和6年度予算について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは、スライドをご覧くださいながらご説明いたします。観光振興関連予算、令和6年度の予算なので現時点では未定でございます。3月議会でご承認をいただいてからになりますので、あくまでも今はまだ予算の予定というふうにお考えいただきたいと思います。まず観光コンベンション協会様の補助金につきましては、令和5年度と比較して110万程度増額しております。「たちかわのたいこぼん」に関する事業費や、ホームページの機能強化費、人件費が主な増額要因です。今後、観光コンベンション協会のスタッフも充実してき

ており、内容の濃い事業がどんどん増えてくるように思っています。

次に、「多摩地域インバウンドガイド連絡協議会補助金」についてです。市は、「多摩地域インバウンドガイド連絡協議会」を立ち上げて、多摩地域の自治体と協力をしながら、インバウンドガイドの養成をしていこうという事業を令和6年度よりスタートします。これにつきましては、東京都市長会から5年で2500万円という補助制度がございますので、その5年間の間に、なるべく多くのインバウンドガイドを発掘・育成し、海外に対して認知活動も行い、実際に立川をはじめとして多摩地域に足を運んでいただけるような環境を整備するという取り組みを行います。より多くの自治体や観光関連事業者様に関わっていただきたいと思っておりますので、市からも積極的に発信していきたいと考えております。

次に、ガイドマップの予算になります。多言語対応の観光ガイドマップの情報が古くなっており、それをリニューアルする形で、日本語版、英語版、中国語版を作成する予定です。

続きまして、くるりんグッズの作成です。令和6年度は、フレックシール、キャラクターカードを作って、イベントに来られた方や子ども向けに配布する予定です。

予算に関する説明は以上でございます。

(会長)

これについて何かございますか。

(A 委員)

インバウンドガイドについて、ボランティアガイドを想定されていらっしゃいますか。

(事務局)

こちらは、副業レベルで稼いでいただくことを想定しております。

(A 委員)

ボランティアじゃなく、観光分野できちんと収入を得られるような仕組みにしていきたいと思っております。そのためには、一つはガイドだけではなく、特区申請などが必要になるかもしれませんが、例えば運転もできるなど、多様なニーズに対応できるガイドを養成していただきたいということと、対象を日本人のみではなく、日本に住む外国人を、ぜひガイド候補の対象にいただければと思います。そうすれば、言語は問題なく、地域に対する知識を習得していただければ、すぐにガイドとして活躍できます。

あと、観光ガイドマップですが、ぜひ広域のマップを作成してほしいと思っています。都庁に各自治体の観光マップが置いてあるのですが、多摩地域のものを見ると、20冊ぐらいを取ってくる必要があります。イメージする広域観光マップは、立川が中心となっているもので結構ですし、ぜひそういうものを考えていただきたいと思っております。公共交通機関が作っているような、地域を巡りましょう、というようなマップがあれば、宿泊事業者としてはとてもありがたいと思っております。

(事務局)

まずガイドにつきましては、専業で生計を立てていけるほどの方を事業期間内に養成できるかというのは難しいところかもしれませんが、最終的にはそういった方を育ててい

きたいないうことを関係団体とも話をしています。ただ単純にボランティアでガイドをしてほしい、ということではなく、ガイドでしっかりお金を稼ぐ、少なくとも副業になるようなクオリティを求めて養成していこうと思っています。対象を外国人の方も入れるというのは非常に良いアイデアだと思います。

観光ガイドマップについては、おっしゃる通り、そういったマップを求める方も少なからずいらっしゃると思いますので、広域連携も視野に入れ、その可能性についてはしっかりと検討してまいりたいと思います。

(会長)

他にご質問等がございますか。事務局からも他に連絡事項はないとのことですので、本日の令和5年度第2回立川市観光振興計画協議会を閉会いたします。